

劣等生の世界に転生？物理が最強なので魔法使ってる厨二病患者共
を鼻で笑ってやろうとおもいます。(旧題：お兄様みたいなパチモ
ンの劣等生じゃなくてガチモンの劣等生として転生したので僻みま
くろうと思います)

oh!お茶

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ぶつ転生者がとりあえず雑草生やす物語。

雑草wwwがはびこつてます。 閲覧注意。

好きなキャラがいる方はご注意を。もしかしたら盛大に馬鹿にしていまするかもしれません。

続かない。

目次

劣等生の世界に転生？物理が最強なので魔法使ってる厨二病患者共
を鼻で笑ってやろうとおもいます。(旧題：お兄様みたいなパチモン
の劣等生じゃなくてガチモンの劣等生として転生したので僻みまく
ろうと思います)

劣等生の世界に転生？物理が最強なので魔法使ってる厨二病患者共を鼻で笑ってやろうとおもいます。（旧題・お兄様みたいなパチモンの劣等生じゃなくてガチモンの劣等生として転生したので僻みまくろうと思います）

この世には転生なるものがあるようだ。そして前世では田中太郎、今世では司波九蔵ことこの俺はそれを見事に体験してしまったというわけだ。

ちなみにこれは余談だが、俺の名前はキュウゾウではなく、クゾウだ。

そう、『シバくぞう』というなんとも弱々しそうな名前なのだ。誰かしらの悪意を感じるね。とは言っても、養子として引き取られたのだから、しょうがないと言えましょうがないのだが。

さてさて話を戻しまして、転生した時の事を話しましょうか。と言っても一行で終わりだけでも。

いつもの道を歩いていて、急に目の前にバスが突っ込んで来たと思ったら、小6くらいの少年になっていたわけだ。

『は？何コレ？転生憑依ってやつ？うわー…なんか新鮮だわあ』とか混乱していたら、家族っぽい人につれられてどっかの研究所へ。

やるってよ、人造魔法師実験。

『あ、ここ劣等生の世界だ』とここで気づく俺、オタク。いや、アニメ観る前にWikiでちよっくら調べただけなんですけどどね。習慣になってるんです。ラノベは読んでなかったよ。

『蕎麦職人目指す世界だっけ？（※違います）』とかなんとか思っていたら、いつの間にか3年前経ちましたワ。

んでんでんで、魔法使えるかなー？と思って聞いてみたら、

『ああ、君は失敗作だよ。かなり強力だけど、強化の魔法しか使えないね。いくら強くても強化するだけじゃねえ……ハハッ』

ハイ、オタワ。

つか鼻で笑うな。

“目からビーム”ならぬ “目から蕎麦”とかやってみたかったわー、とか親っぽい人に愚痴ってたら、

『次期当主候補の命に代えても守護するボディーガードの任務につけよ。二度と戻ってくんない出来損ない』

とか言われて、いつの間にか司波さんちにお邪魔する事に。

結構ハードモードの人生ですな。

生前ブラック企業に20年間勤め続けた俺じやなきや鬱病になつとるで。

そんな俺に兄と姉が一週間くらい前にできました。みなさんご存知の通り主人公の蕎麦達也さん（※違います）と、その妹の蕎麦深雪さん（※違います）だ。だが、俺は彼等とは仲が悪い。

いや、別に俺は彼等を嫌ってはいないが、彼等が一方的に俺を嫌うのだ。

何故だ、解せぬ。

と、悩みながらも家の中を歩いていると、足をすべらせ頭を打つ。

蘇ってくるのは彼等と初めて出会った時の記憶。

――

『なんすかWWWザ・デストロイてWWW俺の腹筋をデストロイする
気かWWWWWWWWWザWWWWWWデWスWトWロWイW
WWWWWWWWW』

次の瞬間雲散霧消により俺の髪が消え去った。毛根からごっそりと。

俺の毛根は死滅した。

――

アカン。あれだ。

お兄様が劣等生のくせにテラチートの魔法使えるからってちよつと僻んだのがいけなかった。

全面的に俺が悪かったわ。

頭を下げたが許してもらえなかった。まあ別にいいけど。

〈〈入学編〉〉

そんな俺も遂に魔法科高校に入学や。もちろんWウイードですがなにか？

とは言っても、これほど俺に合った呼称は無いと思っっているから全く気にしてない。

むしろ“W”雑草または“W”ワロスと改変して貰いたいくらいだ。

そこらへんは脇に置いて、兄と姉が何やら騒いでますわ。

いや、姉がプンスカしてんのを兄がなだめてる感じですか。

「納得いきません!! 筆記で満点をお取りになったお兄様が評価されないなんて!!」

納得しろや。ここは魔法学校ホグワーツやで。魔法ができなかったらW雑草W雑草に決まるとるやろ。つか苗字がWシバWシバなんだしもうええやん。

「それは仕方のないことなんだ」

なんかチート魔法持つてる奴が言うといラツとするな。

時は経ち、忍者ハットリ君がお兄様にボコされました。

なんで俺がお兄さまと一緒にいるのかって？自分、お兄さまの護衛ですから。加えて、お兄さまの居る所にお姉さま有りですから。

というか武器の使用は禁止と言われているにもかかわらず、お兄様が鉄砲チャカ持つてるコレ不思議。まあ本人達が納得しているのならよしとしようか。

意識を取り戻したハットリ君に慰めの一言。

「服www部www半www蔵wwwwwwwww縄文時代に帰れwww
wwwwwwwwwwww」

「服部半蔵は戦国から江戸だ!!」

「キヤラ作りに必死wwwwww」

次の瞬間『ニャルラトホ這い寄る混と……じゃなくてスリザリン・サンダース雷 蛇』が俺を襲った。
目の前が真っ暗になった。

森崎？だれそれ？

？
目が覚めて気づいた。俺、放置されてたわ。いくらなんでも酷くね

なんかお兄様とお姉様について行ったら生徒会室に着いたわ。

「例えば……反魔法国際政治団体、ブランシユとか」

「!!!」

「何故知っているの!?!情報規制されているはずよ!?!」

この反応からして、みんな知ってんじゃないかねーかwwwwww情報規制どう
したwww

つかブランコってなんでwww

アニメの内容も忘れて来たから思い出せんがな。

疑問に思ったので質問してみたがスルーされたので部屋の隅で寛いで皆さんのお話が終わるのを待つ。

あ、お兄様の新作の「気配消し外套」着たまんまだった。そりゃ無視されるわ。今晩いでも混乱させるだけだし、まあいいか。

はあ……………ガーディアン辞めてエ……………つか普通の高校に行きてエ……………

なんかお兄様達に着いて行ったら大勢に銃を向けられた。何故だ、解せぬ。

とりあえず、撃たれる前に全員瞬殺。

素手で。

こう見えて肉弾戦は強い俺です。何と言っても忍者のお師匠さんがいるのだから。体術だけならお兄様も鼻ほじりながらあしらえますよ。

実際やったらお姉たまから氷炎魔法インフェルノ放たれそうになったから辞めたけど。

それはさておき、返り血をGATSBYで拭き取って……顔がキンキンする……先に進むと、戦闘力5くらいの頭脳派ボスみたいな奴が出てきた。

「僕が、ブランシユ日本支部のリーダーオポプツ」

戦闘は先手必勝に限ります。何か話し始めたリーダーさんだが、隙だらけだったのでワンパンで体のど真ん中に風穴あけてやったぜ。

ああ、もちろん魔法は使ってますよ。そうそう強化魔法。身体強化。

初めてやってみただけど案外いけるわ、コレ。

上手く制御できなくて後ろにいた下っ端みたいな奴らも衝撃波で吹っ飛んだけど。

まあ後はポリに任せて帰りますか。

と後ろに振り返ると、啞然としているお兄様とお姉様。

あんれえ？どったの？

ああ、そういや二人の前で魔法使ったの初めてだもんねー。
びっくりしたのね。

そんな彼等に超投げやりに説明しつつ、学校に帰りました。

2人に付いていけば行き先は保健室。

その中には目を覚ました壬生先輩と、彼女に寄り添う男の先輩。
……………つてか殺人未遂犯して、お兄様に補導された先輩じゃんwwww
wwww思い出してワロタwwwwたかが喧嘩で高周波ブレード振り回
すとかマジキチwwwwww

……………そういや、ブランコのアジトにさつき一緒に乗り込みに行つ
たわ。先に帰って来てたのね。

まあそんなマジキチ野郎は置いといて、壬生先輩には説教しなけれ
ば。

また変な組織を連れて来られたら迷惑だからな。

「美少女剣士wwww一般の高校行けよwwwwww 『魔法の成
績しか評価されない!!』wwwwww当たり前だろwwwwww魔法科
高校やでwwwwww拳句ブランコとかいうデオチ組織に利用され
おつてwwwwwwwwwwwwハハッ」

次の瞬間木刀で俺の意識は刈り取られた。

俺の頭は不毛地帯なんだぞ。木刀なんざ振り下ろすな。

勿論、額は割れた。

〈九校戦編〉

「森崎の霊圧が消えた……………!?!」

そう言ったのは誰だったか。

お兄様とお姉様からの命令。

モノリス・コードにしろつてよ。

『断る』

『お前の部屋のゲームにマテバ』

『喜んで出場させていただきます』

株式市場で稼いだ200万円全てを注ぎ込んだゲームを分解されるなんざ、たまったもんじゃない。全力ダツシユで第一校の所にいけば、皆さん勢揃いで。

「ああ、あの時の。あなたが司波九蔵きゆうざうくん？」

あの時とはいつのことだ。

……ああ、ハットリ君がボコされたときか。

あと名前が違う。

「いいえ違います。俺の名前は司波九蔵シバクゾウです。よろしくお願いします」

「え、……あと……えつと……よろしく。達也くんの弟さんね」

俺の全力の訂正にタジタジの会長さん。そんな彼女の問いに答えるお兄様。

「ええ、戸籍上は。あとはI—Eの吉田幹比古を加えて出場するつもりです」

ええー、マジでー。俺なんか役に立たんよ。

そんな俺の心境を知ってか知らずか、十文字なんとかさんがお兄様に尋ねた。

「司波、お前の弟は強いのか？」

弱いです。強化の魔法しか使えません。こんなんでもノリス・コードに出るなんて、なかなか出来ることじゃないよ。

「ええ。成績は悲惨ですが、こと戦闘に関しては俺より上だと断言できます」

なん……だと……!?

「「「えつ!?!」」」

「それは本当か、司波?」

「ええ、本人は否定するでしょうが」

当たり前だ。マテバ使える時点で俺の方が弱いわ、ボケ。……おつ

と！冷気が。

「ふふふ…九蔵？今失礼なこと「考えてません。ごめんなさい」…次は無いわ」

まったく…面倒だ。

なんやかんやで決勝戦。

既に試合は始まっている。

俺の目の前には第三校の三人が。後ろにはお兄様と吉田がモノリスの前に棒立ち。

何故こんなことになっているか。

それはお兄様の超ハイスペックな脳みそが弾き出したとある作戦による。

その作戦とは、俺が一人で第三校全員を張つ倒す。

お兄様つて実は馬鹿なんじゃね？と思つた俺は間違つてないはず。

もちろん反対したさ。だがな、

『賛成しないと、お前の朝飯と晩飯は今後全とうどん』

ここに来て、うどんスレを脅迫に使われたら賛成するしかないじゃない。

てな訳で、今一条将輝が30mほど前にいます。

どうせ殺られる（※誤字ではない）んだし、最期（※誤字ではない）に言いたいこと言っちゃおうか。

声が届くように、喉に重点的に身体強化かけて、と。

「クリームゾン・プリンスwww同人サークルかよwwwwwwテラワロスwwwwwwしかも爆裂てwwwwwwブフォオツwwwwwwwwwwwwクリームゾン・プリンス略してクリプリスwww…あつ…下ネタ一步手前…」

次の瞬間なんか魔法くらつて俺の腹筋が崩壊した。

後で聞いた話だが、会場全体が静寂に包まれたそうなの。

腹に魔法くらつた俺だが、もちろん身体強化をしていたため、一切

怪我を負うことなく地面に着地する。

つつても死ぬほど痛いけど。身体強化は身体が強化されるだけであって、衝撃が消えたり痛覚が無くなったりするものではないからな。

が、崩壊した腹筋は痛み程度では治らない。

「ブフオオツｗｗ
ｗｗｗｗｗｗｗｗ下ネタ爆裂ｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ
ｗｗ」

そんな感じで笑い転げる俺を見て、爆裂プリンスは啞然とし、彼の隣にいたおデコは驚愕に目を見張る。

「馬鹿なっ!?!さっきの将輝の一撃は規定違反ギリギリの威力だぞ!!なぜ効いていない!?!」

そう、カーディナル・ジョージこと爆裂真紅朗……じゃない、混じった、スマン。吉祥寺真紅朗だ。

「ってかカーディナル・ジョージってｗｗｗｗｗｗｗｗワロスｗｗｗｗ
「カーディナル・ジョージじゃないっすかｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ
ディナル・ジョージでｗｗｗｗｗｗｗｗジョージってなんすかｗｗｗｗｗｗ
ｗｗｗｗｗｗ吉祥寺の “ じょうじ ” っすかｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗｗ
れなら、 “ カーディナル・じょうじ ” 、じゃないっすかｗｗｗｗ
ｗｗｗｗｗｗテラフォーマーかよｗｗｗｗｗｗ」

次の瞬間インビブル・バレットが俺の腹筋を破壊した。

「ｗｗ
ｗｗ
ｗｗ
ｗｗ」

俺の笑いが収まる頃にはお兄様が爆裂プリンスを、吉田氏がテラフォーマーを倒していた。

「物理」
とりあえず残りの一人をワンパンで吹っ飛ばして（身体強化という魔法による攻撃）俺たち第一校の勝利となった。

……俺、爆笑してただけなんだけど。

これにて俺の九校戦は終わった。